

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：32415

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330164

研究課題名(和文) グローバルジャーナリズムの報道傾向分析と国際オーディエンス調査

研究課題名(英文) Contents Analysis on News in Global Journalism and its Audience Survey

研究代表者

鈴木 弘貴 (Suzuki, Hirotaka)

十文字学園女子大学・人間生活学部・教授

研究者番号：40337639

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,400,000円、(間接経費) 2,220,000円

研究成果の概要(和文)：内容分析の結果：1. 一本のニュースが短い傾向にある 2. 日本のメディアではほとんど取り上げられないことのない、アフリカ地域の情報が北米などと同等の量、取り扱われている 3. 取り扱うニュースのジャンルは、「戦争・テロ」カテゴリーのものが多く ことが分かった。

国際オーディエンス調査の結果：超高学歴層で、ニュース事象によっては発生地に地政学的に近いと思われるその他のグローバルジャーナリズムにもアクセスする。業務における国際的な情勢把握の必要度が高い層ほど、経済ニュースを好み、また自らを国家を超えたより広い地域に帰属しているという意識を持つ人が多い ことが分かった。

研究成果の概要(英文)：The content analysis shows that the news dealt by Global Journalism have tendencies shown below: 1. each news clips are shorter compared to those of a national journalism 2. African news are relatively picked up 3. War and Terrorism related news are their favorite topics. The international audience survey reveals that the audience profile of the Global Journalism are 1. Highly educated 2. selective user of the Global Journalism depending on the nature of the topics and location of the venue concerned 3. Those who need international information are likely to catch business and finance topics and have the identity that they are belong to a supranational space.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：グローバルジャーナリズム グローバルオーディエンス CNN International BBC World News Al Jazeera English EuroNews Channel News Asia NHK World

1. 研究開始当初の背景

従来のジャーナリズムは、ナショナルな受容者を対象に、ナショナルな視点でニュースを収集し、選択し、解釈し、そしてナショナルに伝達していた。しかし、放送ジャーナリズムの世界では、1980年代後半から、静止衛星技術の発達により、国境の存在を意識することなく、伝達することが可能になり始めた。その先駆者として1985年にスタートしたCNNインターナショナル(CNNI)は、当初は伝達のみがグローバルなだけで、その伝えるニュースの選択・解釈は「アメリカ」というナショナルなそれのままであった。しかし、その後、90年代に入りBBCWNなど他の放送局もグローバルな伝達を開始するようになると、その伝達内容も徐々にグローバル化を志向していった。そして現在では、これら「グローバルジャーナリズム」は、異口同音に「世界のニュースをグローバルな視点で、グローバル市民に」をモットーとしている。

2. 研究の目的

ここで生じられる問題意識は、ナショナルな意思決定機関が存在し、それに能動的に関わらんとする市民のためにニュースを提供することを期待されているナショナルなジャーナリズムとは異なり、グローバルな意思決定機関が存在しない「グローバル社会」の現状の中、果たして「グローバルな受容者」を対象にした「グローバルな視点」でニュースを生成することが可能なのか、可能であるならばそれはどのようなものか、また、そのような「グローバルなニュース」を積極的に受容しようとする「グローバルオーディエンス」とは一体どのような問題意識および属性、またライフスタイルを持つ人々なのだろうか、というものである。こうした「グローバル社会」の現状の中、果たして「グローバル社会のアジェンダ」を提示するようなジャーナリズムが先行して現れているのであろうか。また、「グローバルな市民意識」が先行して醸成されつつあるのであろうか。現存する「グローバルジャーナリズム」およびそのオーディエンスを解明することは、進行するグローバル化の本質を見極めるこうした問題意識に対し、一つの解答を与えるものとなるであろう。

3. 研究の方法

(1) 内容分析

米のCNNインターナショナル(CNNI)、仏のユーロニュース(EN)、英のBBCワールドニュース(BBCWN)、カタールのアルジャジーラ・イングリッシュ(AJE)、シンガポールのチャンネルニュースアジア(CNA)、そして日本のNHKワールド(NHKW)の6チャンネルの報道内容の報道傾向に焦点を当て、「地球市民のためのニュース」とは、どのようなジャンルが多いのかを調べた。

分析対象	分析対象2012年9月～10月から任意の4週間(28日、月～日)を構成						
	NHKW	CNA	EN	CNNI	BBCWN	AJE	
		28	25	27	28	26	27
ニュース本数	ニュース本数						
	NHKW	CNA	EN	CNNI	BBCWN	AJE	
		281	438	433	258	299	349.5

(2) オーディエンス調査

インターネット調査会社のマクロミル社およびその海外提携会社(Toluna)を利用し、以下の方法によるWEBアンケートを行った。

調査対象国(カッコ内は調査に使用した言語)エジプト*(アラビア語)、トルコ(トルコ語)、ブラジル(ポルトガル語)、アルゼンチン*(スペイン語)、ロシア(ロシア語)、ベルギー(オランダ語、フランス語)、ドイツ(ドイツ語)、カナダ(英語)、南アフリカ*(英語)、オーストラリア(英語)、インド*(英語)、フィリピン*(英語)、日本(日本語) <*は非OECD加盟国>

予算上の制約から調査対象国は13か国となったが、その選定に当たっては、「調査対象国の所在国ではなく、インターネット、ケーブルテレビ、衛星放送を通じた情報の入手が比較的自由に許可されており、これらの設備がある程度普及している国」を前提に、A. 地政学的な多様性、B. 文化的な多様性 - の2点を最大限確保できるように努めた。

調査期間

2012年3月23日 4月24日

調査対象者

20歳以上の男女を対象に、BBC World News (BBCWN=英)、CNN International(CNNI=米)、Channel News Asia (CNA=シンガポール)、Al-Jazeera English (AJE = カタール)、Euronews (EN=仏)、そしてNHK World (NHKW = 日本)の計6局の放送とそのWeb Site (WS) に対し、「過去1か月以内に、月に1度以上、2つ以上のメディアの放送またはWSにアクセスした者(同一局の放送とWeb双方へのアクセスは1つとカウント)」を調査対象(以下、これを「グローバルオーディエンス」と呼ぶ)とし、各国とも有効回答75サンプル以上を収集した。回答者はすべてマクロミルおよびTolunaに登録されている各国の「会員パネラー」である。

調査項目

調査項目は発表者が日本語と英語で作成し、その他の言語への翻訳は英語版をもとにマクロミル社に委託した。

調査内容は、前回調査との関連性の深いアクセス頻度、各局に対する評価、よく視聴する番組内容、帰属意識(National, Regional, Globalの3層)、社会的属性、などの項目に加え、今回の調査では、複数のグローバルジャーナリズムにアクセスしているオーディエンスを対象に、2011年以降で世界的に注目されたと思われる具体的な事象を7つ取り上げ、それぞれのニュースについて、これらグローバルジャーナリズムを当該事象に関する情報ソースとしたか否かおよびその理由について尋ねた。調査対象とした事象は、事象の発生時期・発生地・性質の

面から特定の偏りを持たないよう配慮し、以下の7事象を選択した。

- ・アラブの春(2011年1月以降。チュニジア・エジプトの政変。カダフィ大佐の死亡)
- ・日本における地震と原発事故(2011年3月)
- ・イギリス王子結婚式(2011年4月)
- ・タイの大洪水とその世界的な経済活動への影響(2011年7-10月)
- ・北朝鮮キムジョンイル総書記死去(2011年12月)
- ・アメリカ大統領選挙共和党候補者指名競争(2012年1月以降)
- ・EUによるギリシャ債務問題救済策合意(2012年2月)

4. 研究成果

(1) 内容分析

グローバルジャーナリズムは、一本のニュースが短い傾向にある。

限られた時間に多くの情報を必要とする、ビジネス(Busy)Orientedなオーディエンスが多いため。

詳細な解説やストーリーより、Fact中心の速報を求めるオーディエンスが多いため。

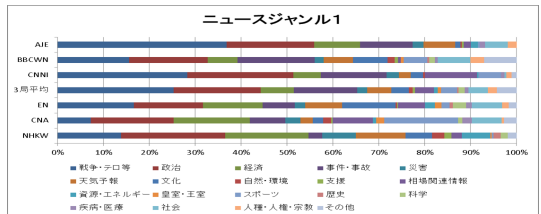
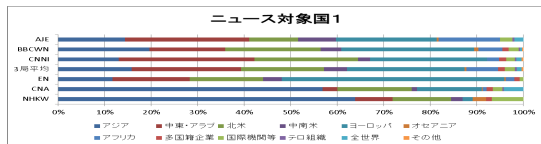
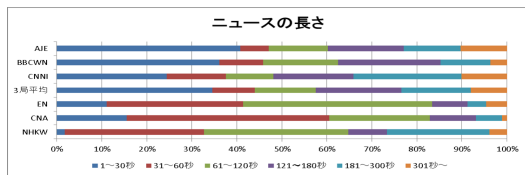
ニュースで取り上げる地球上の地理的地域分布では、ナショナルなニュースメディアと比べ、比較的バランスが取れている。

特に、日本のメディアではほとんど取り上げられないことのない、アフリカ地域の情報が北米などと同等の量、取り扱われている。

ナショナルバイアス・ナショナルインタレストを排した、グローバルジャーナリズムの面目躍如である。

グローバルジャーナリズムが取り扱うニュースのジャンルは、「戦争・テロ」カテゴリーのものが多い。

マーケットや国家・企業等の政策に関わる仕事など、国際情勢に敏感なオーディエンスが多いため。



(2) オーディエンス調査

「グローバルオーディエンス」像

今回の調査対象となった13か国の回答サンプルは、1か国77-78サンプルを得ており、13か国合計1010サンプルであった。回答者の国籍は、47か国に分布しており、そのうち、英語を母語とする者は183名、18.1%である。回答者集団の基本属性は以下の通り。

表 性別の分布

	男	女	計
%	56.4	43.6	100.0
人数	570	440	1010

表 年齢層の分布

	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	計
%	26.7	29.5	21.7	12.6	7.7	1.8	100.0
人数	270	298	219	127	78	18	1010

表 学歴の分布

	高校以下	大学	修士	博士	その他	計
%	19.8	57.4	12.8	2.8	7.2	100.0
人数	200	580	129	28	73	1010

表 雇用形態の分布

	無職学生	有職者	計
%	23.4	76.6	100.0
人数	236	774	1010

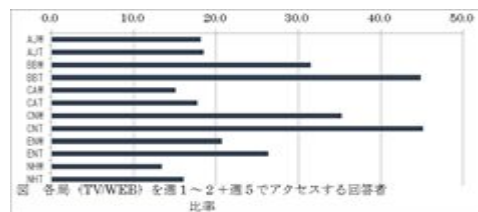
表 国際情勢把握必要性の分布(有職者対象)

	なし	ほぼ	やや	非常に	計
%	11.5	21.6	41.5	25.5	100.0
人数	89	167	321	197	774

学歴に関しては、OECDの2012年調査「Skills Outlook 2013」によると、OECD加盟国・地域24か国の平均大卒率が30.1%であることを考えれば、「グローバルオーディエンス」は、極めて高学歴層であるといえる。

どの局が人気があるのか?

調査対象の6局とそのWeb Site(WS)へのアクセス頻度を尋ね、「一週間に1-4回じっくり視聴・閲覧している」および「一週間に5-7回じっくり視聴・閲覧している」と回答した数を合計し、その全回答者に占める割合を示したのが以下の資料である。



次に各局(WEB/TV)のアクセス頻度について、回答選択肢「週5-7」+「週1-

4」を「頻繁」アクセス、それ以下を「たま」、ゼロを「なし」とした3群に分類して、海外情勢把握必要程度(4群)とのクロス集計を行った結果が以下の資料である。



ここから読み取れることは、CNNI と BBCWN は、業務遂行上の国際情勢情報の必要度に関係なく「日常的に視聴」されており、それ以外の4局は、国際情勢情報の必要度が高い層が、「選択的に視聴」しているという構造である。そこでさらに、こうした「選択的な視聴」の実態を調べるために、7事象ごとの6局別のアクセス状況をまとめたのが以下の資料である。

表 各イベントに関する情報入手のために各局を視聴した割合の比較

	AJE		BBCWN		CNA		CNNI		EN		NHKW		国内メディア	
	未	視聴	未	視聴	未	視聴	未	視聴	未	視聴	未	視聴	未	視聴
アラブ	76.3%	23.7%	57.5%	42.5%	91.9%	8.1%	53.3%	46.7%	82.2%	17.8%	93.0%	7.0%	48.6%	51.4%
地震	90.1%	9.9%	54.1%	45.9%	87.0%	13.0%	50.4%	49.6%	83.4%	16.6%	89.2%	10.8%	45.8%	54.2%
英王子	93.9%	6.1%	60.3%	39.7%	90.9%	9.1%	68.4%	31.6%	86.0%	14.0%	93.9%	6.1%	49.1%	50.9%
タイ	90.6%	9.4%	67.5%	32.5%	87.6%	12.4%	58.5%	41.5%	85.7%	14.3%	91.6%	8.4%	52.8%	47.2%
金正日	91.1%	8.9%	69.8%	30.2%	88.3%	11.7%	63.4%	36.6%	86.9%	13.1%	90.5%	9.5%	53.8%	46.2%
大統領	92.9%	7.1%	75.4%	24.6%	92.5%	7.5%	54.1%	45.9%	88.8%	11.2%	92.7%	7.3%	58.2%	41.8%
ギリ	93.2%	6.8%	70.3%	29.7%	91.8%	8.2%	66.2%	33.8%	81.4%	18.6%	92.6%	7.4%	53.5%	46.5%
全体	89.8%	10.2%	64.8%	35.2%	89.9%	10.1%	58.1%	40.9%	84.9%	15.1%	91.9%	8.1%	51.6%	48.4%
2値	223.76	150.48	33.13	113.96	30.69	20.45								

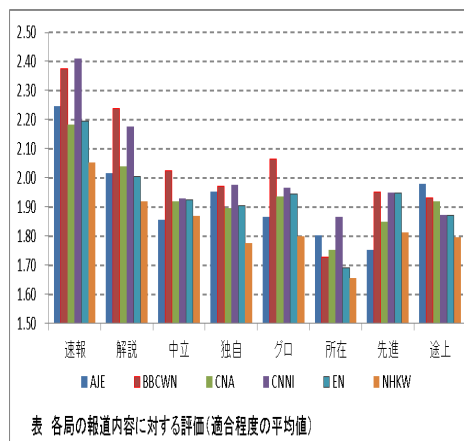
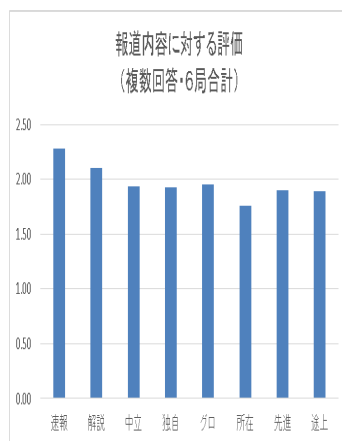
注 青 有意に多い 赤 有意に少ない 無色 全体比率と差がない

上記の分析から、「グローバルオーディエンス」は、ニュース事象の発生地に地政学的に近いと思われる放送局にアクセスをする傾向にあることがわかる。つまり、ニュース事

象に応じて、グローバルジャーナリズムを選択的に使い分けているという、能動的な視聴態度が伺える。

報道内容に対し、どのような評価をしているのか

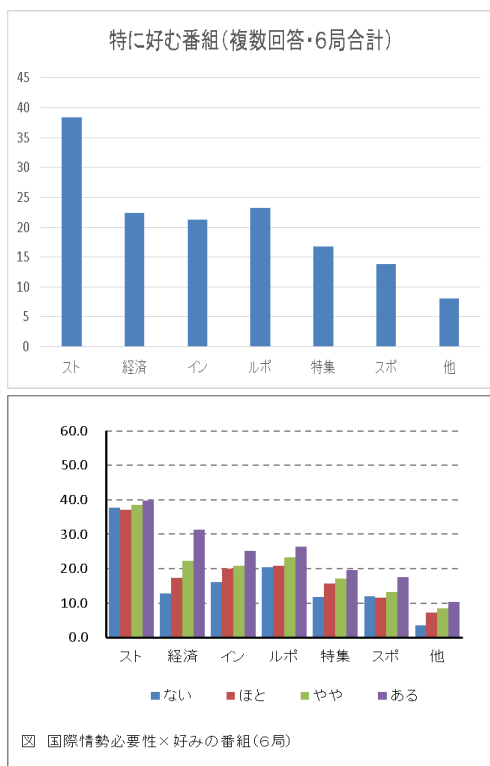
「グローバルオーディエンス」は、各局の報道内容に対し、どのような印象・評価を持っているのかを尋ね、6局を合計したものが次の上のグラフ、各局別に集計したものが次の下のグラフである。



グローバルジャーナリズム全体の評価では、「速報に強い」が最も多く、次いで「解説が充実している」の順であった。「放送局所在国の利益や視点に偏っている」という印象・評価は最も少なかった。放送局別の比較では、BBCWNとCNNIが「速報に強い」と「解説が充実している」という評価を他の放送局よりも統計的に有意な差をつけて得ている。両者の相違点としては、CNNIが「放送局所在国の利益や視点に偏っている」との印象を統計的にや

や有意な差をつけて持たれているのに対し、BBCWNは「中立的な事実中心の報道をしている」（統計的に有意な差）と「内容・地理などの観点からグローバルにバランスの取れた情報提供をしている」（統計的にやや有意な差）との評価を得ている点である。

どのようなニュースを好むのか「グローバルオーディエンス」が、グローバルジャーナリズムのどのような番組形態を好んで視聴しているのかを探るために、「好む番組形態」について質問した結果をまとめたのが次の上のグラフである。さらにこれを「国際情勢情報の必要性」とクロス集計したのが、次の下のグラフである。



好む番組形態は「ストレートニュース」が最も多く、次いで「ルポルタージュ・調査報道」、「経済・マーケット・ビジネスニュース」、「インタビュー・討論」と続くが、これを国際情報必要度との関連で見ると、特に経済関連ニュース選好との正の相関関係が目立つ。

どのような意識を持っている人たちなのか最後に、「グローバルオーディエンス」の帰属意識を調べた結果をまとめたのが以下の表

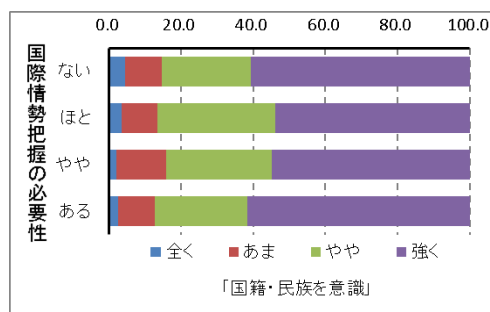
である。

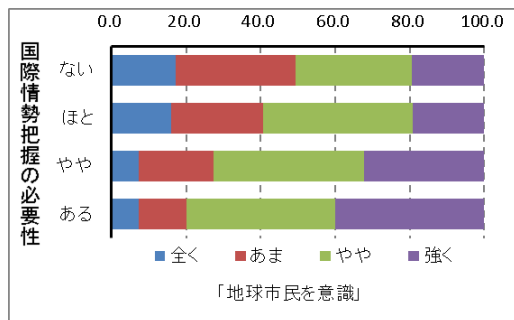
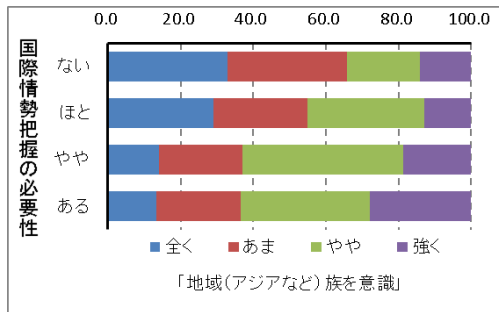
表 帰属意識 (複数回答 %)

	全く:0	あまり:1	やや:2	強く:3	計
国籍・民族を意識	3.1	11.1	28.5	57.3	100.0
地域への帰属意識	19.1	26.4	35.2	19.2	100.0
地球市民	10.5	21.9	37.9	29.8	100.0

まとめ

グローバルジャーナリズムを積極的に受容しようとする「グローバルオーディエンス」は、超高学歴層で、BBCWN と CNNI の情報に日常的にアクセスし、ニュース事象によっては発生地に地政学的に近いと思われるその他のグローバルジャーナリズムにもアクセスする。BBCWN と CNNI を重視している理由は、両者の速報性と解説の充実度を高く評価しているからであるが、BBCWN にアクセスするのは、その中立でグローバルな報道内容によってであり、CNNI にアクセスするのは、ニュース事象に対する「アメリカの視点」を知りたいという側面があるからである。業務における国際的な情勢把握の必要度が高い層ほど、経済ニュースを好み、また自らを国家を超えたより広い地域に帰属しているという意識を持つ人が多い。さらに、これらの結果に、「国際情勢把握の必要性」の調査項目との間でクロス集計を取ったのが、次の3つのグラフである。





a. 国際情勢必要度(「ない」「ある」と国籍・民族を意識するか(「全くしない」「強く意識する」との関連を分析するために、二乗検定を行った結果、有意な差はみられなかった($\chi^2(9) = 7.54, n.s.$)

b. 国際情勢必要度と地域を意識するかとの関連を分析するために、二乗検定を行った結果、有意な差がみられた($\chi^2(9) = 51.54, p < .01$)

c. 国際情勢必要度と「地球市民」を意識するかとの関連を分析するために、二乗検定を行った結果、有意な差がみられた($\chi^2(9) = 44.98, p < .01$)

これらの結果から、「グローバルオーディエンス」は、「国籍・民族を意識する」層が最も多いものの、「業務遂行上、国際情勢を把握する必要がある」人ほど、「アジア人意識を感じることもある」および「自分は『地球市民』の一員だと感じることもある」人が増加する傾向にあることがわかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

「世界 13 各国におけるグローバルジャーナリズムのオーディエンス調査分析 誰が、何を、何のために視聴しているのか (鈴木弘貴・綿井雅康) 日本マス・コミュニケーション学会「研究発表論文集」同学会 HP 2013. 査読無

「日本における「グローバルジャーナリズム」のオーディエンス像 オーディエンスのグローバル化を論じる手がかりとして」(鈴木弘貴・綿井雅康) 『社会情報論叢』 第 15 号、pp.57-79 2012 年 査読有

〔学会発表〕(計 3 件)

「日中韓共通の放送コンテンツ作りに向けて」『国際シンポジウム—メディアの越境は何をもたらすのか』鈴木弘貴 (2013年11月2日 (土) 会場：北海道大学)

『世界 13 各国におけるグローバルジャーナリズムのオーディエンス調査分析 誰が、何を、何のために視聴しているのか』(鈴木弘貴・綿井雅康) 日本マス・コミュニケーション学会・2013年度秋季研究発表会・日時：2013年10月26日 / 会場：上智大学

「Layer of Interest in News」『対米報道 - 第18回日韓シンポジウム』鈴木弘貴 (日本マス・コミュニケーション学会、韓国言論学会共催、2012年 8 月25日 (土) 場所：成城大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 弘貴 (SUZUKI, Hirotaka)
 十文字学園女子大学・人間生活学部・教授
 研究者番号：40337639

(2) 研究分担者

小林 直美 (KOBAYASHI, Naomi)
 十文字学園女子大学・人間生活学部・助手
 研究者番号：90633834

(3) 連携研究者

綿井 雅康 (WATAI, Masayasu)
 十文字学園女子大学・人間生活学部・教授
 研究者番号：80240472